

# 日本大学経済学部産業経営研究所 公開月例研究会

平成28年度統一テーマ

「ビッグデータ時代における産業・企業の課題」

第288回 講演テーマ

## 「ビッグデータ時代の財務報告」

神戸大学 大学院経営学研究科  
教授 音川 和久 師

### ■要旨■

企業が行う財務報告の主たる目的は、投資家の将来業績の予測と企業価値評価に役立つ情報を提供することである。資本市場研究は、損益計算書の会計利益を中心に、会計情報が投資家の投資意思決定に対して有用性をもつことを例証してきた。しかし、最近の情報技術の発達は、より大量の情報をよりタイムリーな形で投資家に伝達・利用することを可能にしている。本講演では、こうした情報技術の発達に伴う財務報告の変容が会計情報の投資意思決定有用性にどのような影響をもたらすのかについて検討する。

### ■推薦者の言葉■

講師は、これまで一貫して資本市場における会計情報の役割に関する実証的な研究を展開し、「投資家行動の実証分析—マーケット・マイクロストラクチャーに基づく会計学研究—」(単著、中央経済社刊、2009年)や「会計情報のファンダメンタル分析」(桜井久勝教授との共著、中央経済社刊、2013年)を上梓する等、当該研究は秀抜な業績として高く評価されている。ビッグデータ時代における財務報告の変容を捉えて、企業価値評価および投資者の意思決定有用性に与える影響に逸早く着目されたのが音川教授であり、当該研究の方法、先行研究の到達点の評価および主要な論点をめぐる研究課題等、報告テーマのご課題に最も相応しい研究者である。

現在日本会計研究学会の理事、また公認会計士試験委員として、要職にあつて学会・社会活動に精力的に取り組まれている音川教授をここにご推薦させて頂きたい。

日時:10月19日(水) 18:00~19:30

会場:日本大学経済学部 7号館9階 7091教室

対象:一般・学生 ※聴講は無料です。